

平成28年度小田原市公開シンポジウム「自然のチカラ×地域デザイン」アンケート集計結果

実施日：平成29年2月18日（土） アンケート回収枚数：46枚

1. 本日のシンポジウムの開催をどのように知りましたか。

①小田原市HP・SNS	5	②小田原市からの案内	12	③新聞・タウン誌	5
④ケーブルTV	0	⑤知人からの案内	16	⑥チラシ	5
⑦その他	7				

2. 本日のシンポジウムに参加した理由を教えてください。

地域の活動に興味があるため

- ・地域の人材・資源を活かした事業に関心がある。(複数回答)
- ・地元の環境を活かした事業に興味があった。(複数回答)
- ・地域に関する活動をしたいと考えているため。(複数回答)
- ・地域の自然資源を活かした地域活性化に興味があるため。
- ・地域の環境保全活動の方向性の参考にしたい。
- ・森を守る活動にボランティアで参加しており、興味があった。
- ・自然に興味があるから、大切にしたいと思うから。
- ・自然環境、里山に興味があった。
- ・地域のため、自分のために何かやりたいと思ったから。
- ・自然を孫、子に伝えるために何か出来ることがあるのではないかと考えており、行動・活動の実態を知るため。

小田原の取組を知るため

- ・小田原市の事例を聞いたかった。(複数回答)
- ・小田原市を取り巻く環境問題の把握、今後の課題、また国内の動向の把握のため。
- ・小田原を活性化させるビジネスをしたく小田原のことをより知るため。
- ・環境省森里川海プロジェクトのモデル地域に選ばれた小田原が、今後何をやっていくのか興味があった。

自然エネルギーの取組に興味があるため

- ・自然エネルギー(再生可能エネルギー)の大切さを認識しているため。
- ・環境問題やエネルギーについて興味があるため。

その他

- ・山・川・農・海の連動が自然回復、住人の意識改善、一次産業の復活に繋がると思い、ヒントになる話が聞けると思ったから。
- ・大学として、教育研究や地域貢献活動を推進する参考とするため。
- ・環境保全の新しいシステム等を知るため。
- ・自然資源により地域でお金を回す理由が知りたかった。
- ・生物多様性と人との暮らしをどう考えるか、多様な意見を聞きたいと思った。
- ・この事業にどうかかわれるかを検討するため。
- ・森里川海プロジェクトについて内容を知るため。
- ・多分野の人がたくさん同席するシンポジウムに興味があった。
- ・パネルディスカッションのテーマに興味があった。

3. 本日のシンポジウムで、印象に残った点・疑問に思った点などあれば教えてください。

事例発表について

- ・三島の渡辺氏の話が印象的だった。(複数回答)
- ・元行政マンらしからぬ辛口コメントで面白かった。
- ・三島市のケースが印象的で、行政に頼るだけでなく、市民が具体的に動き始めることが重要。
- ・顔の見える関係が様々な点で大切。共感する・されることが大切。
- ・「頭をつかえ」、酒の席ではよいアイデアが出るので録音して後でメモをとる。
- ・「小田原が今こうなのは、市民のせい」
- ・特に各論の議論のあり方(赤ちょうちんの件)は我が意を得たりの思いだった。
- ・NPO法人でも利益を出し人を雇うことの大切さを感じた。
- ・まちや自然を再生させるプロデュース力と人材ネットワーク力が強く印象に残った。
- ・小学生の発表が興味深かった。
- ・千代小のホタル田の活動が印象的だった。

パネルディスカッションについて

- ・辻村農園のバイオマス発電のエネルギー効率・生産量が知りたい。
- ・フォレストアドベンチャーの取組が印象的だった。
- ・八木氏のクラウドファンディングに大変興味を感じた。(複数回答)
- ・エネルギーコンソーシアムについて。
- ・ECHO(小田原箱根エネルギーコンソーシアム)とおだわら環境志民ネットワークの連携により、地域経済を回せるのでは。

経済を回すこと・人材育成について

- ・長期的な人材確保の難しさ、短期的な経済性の追求。思いだけでは成り立たない。
- ・「自然資源により地域でお金を回す」、里山を保全しながら経済活動につなげていく手法について。

- お金を「回す」という行為のベクトルを変える必要はないだろうか。
- 人材育成の難しさを実感した。
- 自然の恵みを経済に取り込むための「人」の大切さ。
- 事業継続のためのキーワードとして人材と資金の循環。
- 地域の良いところ(ポテンシャル)を引き出す、つなげるのは、よそから来た人の方が見える。人と人をつなげるよそ者が必要だと思う。

その他

- 地域資源を活かすためのヒントが多かった。
- 広く資金調達を行う計画であるが、お金を出したくなるような活動が必要。
- 共感の大切さ。
- 問題などを共感するというキーワードが印象的だった。
- 環境活動は根本的には市民から盛り上げる必要がある。それをどう仕掛け、共感を得ていくか。
- 環境省のビジョンの中で、「100年後まで見通した新たなパラダイム」に関してもう少し言及してほしいかった。
- 様々な点で現場と接し、経験豊富な方々の具体的な話を聞いて良かった。
- 地域の住民が地元の資源の価値を認識することが重要であることを改めて感じた。
- 森里川海プロジェクトが地域に与える貢献度の高さが印象的だった。
- 地域活性の様々な可能性。
- 創業塾の話。
- おだわら環境志民ネットワークが何をしていくかを明確にした方がよい。

4. 本日のシンポジウムをきっかけに、今後、実践したい・参加したい取組みなどあれば教えてください。

身近な取組・普及啓発

- 今後、学校内だけでなく、外での取組みに参加していきたい。
- 身近な河川水路の清掃をしようと思う。
- 今後は、「地域をどうしていくか」ということを頭の中に入れ日々生活していきたい。
- 地域に関心を持ち、何でもいいのでアクションを起こしたい。
- 自分の身近にある課題を解決したい。
- 自分の信じる取組を行っていく。
- 企業として、個人として何かしら参画してみたい。
- 無理をしない中での自然保護活動、まずは自分の身のまわりから。
- 自然にもっと接すること、その力を確かめた。
- 地元の自然環境に関連する商品・サービスにお金を使う。
- 自然保護活動への積極的な参加。
- このようなシンポジウムに積極的に参加し、現状把握していきたい。
- 森林ボランティアや森林インストラクター活動の継続。
- 継続は力である。今までの農園芸、野鳥調査などを続けていこうという力をもらった。
- 初めて得た分野の知識が沢山あり、整理してこれから考える。
- 人とのつながりの少なさを認識し、今後広げ深めていくようにしたい。
- みどり施策の中で、市民参加を進めることに腐心しています。

その他

- 地域おこしへの参加。
- クラウドファンディング。
- 森の再生。
- ビジネス起業。
- 10年程、生ごみ(段ボールコンポスト)をやっているので維持したい。
- 産業界から、特に建設業に関わる企業から、人材育成プログラムを作りたい。
- 自然資源を利用(活用)した地域で金を回すシステムについて研究したい。そこで生み出したお金を活用した地域還元の方法も。
- おだわら環境志民ネットワークの活動に加わりたい(活動面・資金面等)
- 居酒屋での仲間との会話で出たアイデアを書き留めること。
- 大学として「環境」をキーワードとしての実践的な研究活動を支援してまいります。
- 小田原の地元企業がUターン・Iターン枠を設けると人口減の対策になるかもしれない。
- 大学、学部学科、ゼミ、個人といった様々な形で本事業に参画することが考えられる。
- 小田原のリソース・資源をもっと調べる。
- 小田原箱根エネルギーコンソーシアムのエネルギーの地産地消事業に参加を検討。

5. 自由記載欄

感想

- どんな小さな事でも、まず実行(実践)することが大事。
- 現在、町田市で地域資源(人・自然イベント)を活用したまちづくりをやろうと動いている。今後も、小田原市なども関わりながら活動していきたい。
- 市内に留まらず、近隣の市町ともつながりましょう。
- 何かのボランティアに参加したい。
- 「金を回す」活動を担う者に、新人の登場はあるのか。
- どういう「まち」にしたいか。

- ・渡辺氏の人に働きかけるということは、その通りだと思う。本音で語ることは難しいが、実践されていることは立派である。
- ・市民ファーストの雰囲気をもっと出した方が良い。
- ・地元の金融機関をもっと巻き込むと良いのでは。(例えば鹿児島銀行の一次産業支援の取組みは参考になると思う)
- ・小田原ならではの事業創出に向けて継続的に意見交換する場が必要ではないかと感じる。

要望

- ・鈴木氏の話された、エネルギーコンソーシアムの話が大変興味深かった。資料が欲しい。
- ・愛川町にて営農しており、農水省と一緒にNOAFというネットワーク立ち上げ、オーガニックを推進しています。是非小田原でも。
- ・限界の近い自然を回復させ、それに関わる人々が幸せになるような話し合いの場を設けてほしい。
- ・もう少し時間を短くし、複数回開催してほしい。
- ・成功例の紹介と広報。
- ・創業塾の案内がほしい。
- ・酒匂川に棲む水生生物の水族館を作してほしい。以前かもめ図書館で見て大変勉強になった。

その他

- ・狩川流域の野鳥調査、国府津以西のヒヨドリの子の秋の渡り調査を行っている。結果は生命の星・地球博物館や、小田原市立郷土文化館研究報告に掲載してもらっている。
 - ・南足柄・塚原で「塚原の雑木林を守る会」(富士ゼロックス株)塚原研究所敷地内の活動を社内ボランティアや地元の人達と一緒にやっている。
- 内容は植樹～成長・管理を実施(約15年経過)。社会貢献活動をどうしていくかを考えており、会のメンバーが「おだわら環境志民ネットワーク」の活動(例えば下草刈り等)にボランティア参加できると良い。

6. 今後、市が主催する環境関連のイベントの開催案内の送付を希望しますか。

希望する	23
希望しない	7